

# 六甲カトリック教会 教会報

9



## 《 被爆の十字架とマリア 》

### 二つの奇跡が物語るもの

原爆投下の際、長崎浦上天主堂にあった十字架がつい先日アメリカから返還された。長崎原爆の日の前々日の8月7日、返還式があり米オハイオ州ウィルミントン大学平和資料センターの Maus 所長から高見三明長崎大司教と信徒代表の藤田千蔵さんに手渡された。74年ぶりの里帰りである。被爆十字架は高さ93センチ横30.3センチの木製。傷は少なく金箔の縁取りも健在である。そもそも終戦時、長崎に進駐していた米軍人フック氏（故人）が親交のあった当時の山口愛次郎長崎司教から譲り受けたものとされる。フック氏がのち同センターに寄贈していた十字架は再び浦上教会に安置されることになった。



被爆の十字架 長崎新聞より



「マリアに捧げる賛歌」とい  
被爆のマリア像

浦上教会にはもうひとつ原爆の痕跡を残したマリア像が安置されている。無残に焼けただれた頬をさらし、悲しげに虚空を見つめるマリアの頭部像は、被爆のマリアと呼ばれる。

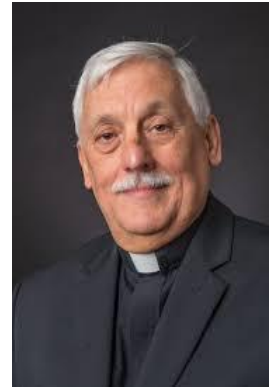
被爆の十字架とマリア、そしてその「復活」。私たち信徒はこの事実を奇跡としてとらえたい。人類のすべての罪を贖い、そして人類のために復活した主イエスの再びの顕現とみるべきではないだろうか。おりしも地球世界は、勇ましくも愚かな言動が広がり、安易に平和が脅かされやすくなっている気配である。この十字架とマリアの出現は私たちに向かったの警世の証しではないだろうか。真剣に考えてみたい。なお、六甲教会の信徒

で作曲家のエリック・コロンの「被爆のマ  
う声楽曲を作曲している。深い祈りに満ちた美

(長崎新聞の記事を一部参考にしました。)

## 《イエズス会総長アルトール・ソーサ神父講演会》

イエズス会4教会(東京麹町、広島祇園、山口、六甲)で現在WEB会議を隔月に開いています。六甲からは評議会議長と広報部が参加しています。まだ実験的な会議ですので、現在はパソコン画面に映し出された各教会のメンバーが互いの情報交換を行っている段階ですが、その会議の際、麹町教会で7月30日に行われたイエズス会総長アルトール・ソーサ神父さまの講演会の紹介があり、このほどその模様をDVDにして送って下さいました。日本語通訳を交えた1時間余の講演会です。講演のテーマは「今日のイエズス会の使命と協働」。講話は、イエズス会として今後なすべき使徒職全体の方向づけ、といった内容で以下にその要旨をお伝えします。



ヨハネ福音書の「私の父はいまもなお働いておられる。だから私も働くのだ」(5章17節)というイエスのことばを冒頭に示され、コラボレート(collaborate=協働)という言葉が盛んに使われました。イエズス会の創始者であるイグナチオ・ロヨラが、巡礼者としてあくまで前を向いて進んだように、私たちの霊的な根源に立ち戻りながら、単にイエズス会のみでなく、ともに協働して識別することが大切である。その方向づけには、まず現状を認識し世俗的世界の中でミッションをみつけること、その中で霊操と識別を通じて神への道を示すことである。そして人々と分かち合うことが大切である。弱い人々、排除されている人々とともに歩むこと、また地球環境への取り組みにも言及され、持続不可能な経済モデルと消費にもとづく生活習慣を変えようなどと大胆な提言もされました、そして、若い人々とともにあゆむことを期待する。さらに4つのポイントとして、①知性に訴えよう、②協働=みんなの力が必要、③信頼が大切、④ネットワークづくり、が示されました。私たちは皆、キリストが、弟子たちと神の民にゆだねられた特別なミッションの協働者である。そのことを深く理解するよう招かれているのだ。最後に「私たちの内に働く御力によって、私たちが求めたり思ったりすること全てをはるかに越えて、かなえることができる方に、教会により、またキリストイエスによって、栄光が世々に限りなくありますように」(エフェソの信徒への手紙3章20-21節)というということばで締めくくられました。

【注】アルトール・ソーサ神父さまは1948年ベネズエラ生まれ、2016年にイエズス会総長に就任。第36回総会において使徒職の方向づけについて、その道はイエズス会会員すべてがかかわるべき(協働)であるとの意思を示された、そのエッセンスが今回の日本での講演で述べられたと理解します。質問が2件ありましたが、ここでは省略します。DVDは教会で保管されていますので貸出しOKです。(編集部)

## 《静かに「祈りの集い」》

8月10日(土)教会で平和旬間の「祈りの集い」が行われた。夕刻とはいえ残暑厳しいなか、しずかに人々は集まった。司会進行は松平麻也さん。最初に「アシジのフランシスコの平和の祈り」を歌い、5人の朗読者がそれぞれ教皇ヨハネパウロ2世広島平和アピールを読み上げ、聖歌「キリストのへいわ」を歌い黙祷をささげた。第二部では①世界の②身近な人々の③子どもたちへの④核の問題を取り上げ共同祈願が出された。最後に保坂真理さんが聖歌「シャローム」をのびやかに歌い上げた。オルガンは松井公子さん。参加者はそれぞれの心に抱く平和への願いや祈りをしたため、あとのタミサで奉納した。思いのほか参加者が多く、準備したパンフレットが足りないほどであった。しみじみと心に残る祈りの集いであった。

## 《キャンプ報告》

教会学校チーフリーダー 吉村 祐基

今年も教会学校では夏のキャンプに行ってきました。

8月8日(木)～10日(土)の日程で場所は兵庫県の兔和野高原野外教育センターでした。

毎年キャンプではテーマを決めて、それに基づいて2泊3日の中でプログラムを行い深めていきます。そして、今年のテーマは「ともだちになるために」でした。友達という言葉や存在を日常的に考える瞬間は少ないと思います。しかし、友達は人生においてかけがえのない大切な存在です。そこで、誰が友達なのか、本当の友達とは何か、友達とはどんな存在なのか、など様々なことを考えていきました。



友達とは時には喧嘩をすること、嫌なことを言ったり言われたりすることもあるけれど、それよりも互いを思いやり尊重し、大切に思い合える。苦しい時も楽しい時も、年齢も性別も人種も全ての違いや垣根を越えて誰かの光になれる。誰かにとって暖かく、優しくお互いを照らし合えることができる存在になれる。そういったことをみんなと感じ、大切な時間を分かち合いました。

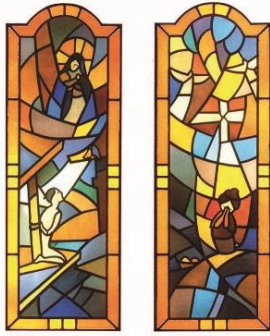
プログラムの中では水鉄砲ではたくさんはしゃぎ、オリエンテーリングでは班のメンバーで互いを思いやりながら行動し、ナイトウォーク&星空観察では人間だけでなく自然や生き物や神さまの存在を感じました。

キャンプが終わり日常に戻っても、みんながそれぞれ誰かの光として誰かの良き隣人、友達として過ごしていってくれることを心から祈っています。



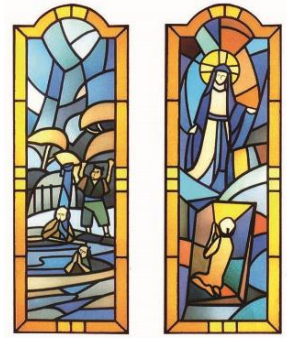
## 《三日月会総会のご案内》

9月16日(敬老の日)13時から三日月会総会が開催されます。教会内最大の参加人数を誇る「大会」です。イグナチオホールに溢れんばかりの「元気な人」が集まります。例会は奇数月の各月(7月は休み)第3月曜日に開かれますが、総会は年1回です。当日は、まずミサに与り、そのあと総会。前年度の報告事項、審議事項、そして今年度の指針が示されます。神父の挨拶の後、懇親会が始まります。テーブルには ケーキ、お茶、果物などが並び、会費は500円です。70歳から会員資格が出来ます。新入会員の紹介があつて、あちこちで会話がはずみます。今回のアトラクションは、「ハワイアンバンド&フラ」です。今年は新入会員も50名と多く、今まで「敬老会なんて」とおっしゃっていた方々もぜひご参加下さい。当日は、思う存分、シルバーパワーを発揮しましょう。尚、申し込みがまだの方はお急ぎください。



## 《講演会のお知らせ》

演題：浦上四番崩れ  
- 津和野乙女峠の証し人に学ぶ -  
日時：9月14日(土) 14:00～16:00  
講師：山根敏身神父  
津和野カトリック教会主任司祭  
会場：イグナチオホール



「浦上四番崩れ」とは明治政府になってからのキリシタン弾圧事件です。長崎の信者が各地へ送られ、その一部が津和野に収容され殉教した場所が乙女峠です。カットのステンドグラスは乙女峠のマリア聖堂のもので、よく見るとキリシタン拷問の場面が描かれています。

### \*\*\* 典礼奉仕者の集い \*\*\*

- ・日 時：9月8日(日) 12:30～15:30
- ・場 所：第1・第2会議室
- ・講 師：中村 健三 神父
- ・テーマ：「詩編で祈る」
- ・対象者：朗読、先唱、聖体授与、祭壇奉仕、独唱、オルガン、ギター、聖歌隊、お花係、案内係、高齢者訪問（初金ミサ等、週日ミサの奉仕者も含みます。）
- ・一年に一度、さまざまな典礼奉仕に携わる方々にお集まりいただき、中村神父様のお話、黙想の後、分かち合い、お互いに意見の交換をいたします。  
皆様のご参加をお願いいたします。 (典礼部)

## バーベキュー大会

秋めく昼のひととき、食べて、飲んで、楽しく交流しましょう！

たくさん来てくださいね～。(壮年会・婦人会)



日時 9月29日(日) 10時のミサ後

参加費 300円(ビール、飲み物付)

なお、当日のイグナチオ喫茶はお休みです

## 「聖書と典礼を読む会」

現在メンバーは11人で、毎月第2と第4の金曜日10時半から第2会議室に集まって、次の日曜日に使われる「聖書と典礼」を読んでいます。参加資格は無く、どなたでも時間が合えば参加してくださいと呼びかけ、かれこれ10年になります。参加者は高齢者が多くなりましたが、最初のきっかけは「ベビーとママの集い」で聖書と典礼を読んだのが始まりです。ミサに十分にあずかれない若いお母さんが少しゆっくり聖書に触れ、みんなで読み感想を分かち合えればとの思いで始まりました。その後ベビーシッターの都合で中断しましたが、洗礼を受けた新しい信徒の方にミサに馴染んでいただくために復活しました。それで今は平均年齢？年ということになり、雨の日はお休みと言う生温い集いですが聖書の魅力のおかげで続いています。

聖書は「一人一人に語り掛けられる神のみ言葉」といわれるように、どのように個人の心に響くかには正解はありません。ですから、「判らなければ司祭に聞く」を基本に信徒として互いの本心を分かち合える場所と時を大切にしています。ミサにあずかる前に聖書に触れて、み言葉に馴染んでおくことは私たちにとってとても大切なことです。いつも集まりの後には感謝の念が湧いてきます。どうぞ「味見」をしに来てください。(藤原泰)

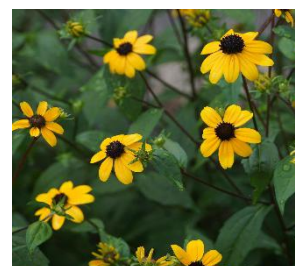
### ◆ 社会活動部より ◆

- ☆ 9月4日(水) 10時 手芸の集い  
(第1、第2会議室)  
どなたでも参加ご自由です。
- ☆ 9月14日(土) 10時 炊き出し  
(イグナチオホール 台所)  
どなたでも参加できます。  
小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話相手や配食だけでもOKです。
- ☆ 9月15日(日) 10時ミサ後  
ふれあい広場 イグナチオホール
- ☆ 9月9日(月) & 27日(金) 9時半  
ともしび会  
施設の子もたちへのケーキ作り  
(イグナチオホール台所)

### 施設管理部 園芸係

花壇の植え替え時は、あらかじめ背景、面積、環境に合わせて丈、色調、季節感をイメージしながら苗を選びます。ドライブの途中、農家の玄関先に咲いている黄色い小花のかたまりが目に入ってきました。園芸店で見つけ即座にこの苗を手にしたのが、ルドベキア‘タカオ’(キク科)宿根草。とてもキュートで平和のシンボルの黄色の花は厳しい暑さも吹き飛ばし元気を与えてくれます。

36度~38度の猛暑が続き、台風10号の上陸と過酷な日々の中、毎日かかさず教会の周囲の清掃、草抜き、花壇の撒水にご協力下さった皆様、有り難うございました。間もなく快い秋風が立ちます。今後は、週報を通して園芸に関するお手伝いをお願いしてまいります。お時間の許す範囲でご参加下さい。



## 《 図書室からのお知らせ 》

### 7月に購入された図書

- |                            |             |
|----------------------------|-------------|
| ☆ 聖書とキリスト論 — 教皇庁 聖書委員会     | カトリック中央協議会  |
| ☆ 信条 — 教皇ベネディクト&教皇フランシスコ   | ペトロ文庫       |
| ☆ いつくしみ — フランシスコ講話集        | ペトロ文庫       |
| ☆ 教皇フランシスコ講話集 4            | ペトロ文庫       |
| ☆ キリスト者の希望 — フランシスコ講話集     | ペトロ文庫       |
| ☆ 秘跡 聖霊のたまもの教会 — フランシスコ講話集 | ペトロ文庫       |
| ☆ 教皇フランシスコ講話集 5            | ペトロ文庫       |
| ☆ 哀歌 現代聖書注解                | 日本キリスト教団出版局 |
| ☆ 士師記 現代聖書注解               | 日本キリスト教団出版局 |

教員が共有するのに相応しいと思われる図書をご推薦下さい。図書室入口に投書箱があります。



## みんなの広場

### 「8月16日によせて」

4年前の8月16日即ち2015年被昇天祝日の翌朝、母は天に召された。「ぶれない信仰者」と、赴任して間がない神父様から葬儀ミサの時に言われた。

その昔、母が結婚して数年後、「あなたの瞳にイエス様が映っている。教会にいらっしゃい」と神父様にナンパ(?)されたのが始まりだったという。2度目の結婚、虚弱な夫、長い不妊、慣れぬ商売、お決まりの婚家との軋轢等々の事情があっても信仰のおかげで母は幸せになれたと思う。

誰もそうだが、欠点も数多かった。私たち6人の子どもに溢れんばかりの愛情を注いでくれたが、その溺愛ぶりに私は何度も批判したことがある。また、自分が悪者になりたくない人だった。そのため私が悪役を引き受けたりした。「それでも信者？」と問いたくなるような弱い面も見せた。私自身はと言えば、信仰生活からほど遠い日常だった。そんな私を母は非難もせず、ただ祈ってくれていたように思う。

89歳の生涯だった。癌のため最期は箕面にあるホスピスにお世話になった。素晴らしいスタッフに加え、神父様、シスター、ボランティアさんに囲まれて過ごした。終油の秘跡を受ける時も自ら祈り・歌った。母らしかった。

みんなとお別れを済ませた夜が明け、私一人の時に眠るように逝った。私の拙いお祈りを聞きながら。。幸せな顔をしていた。

そうそう、鏡を肌身放さず持ち、お見舞いに来た親戚から「今更化粧品？どこに塗るんや」と冷やかされていた。きっとイエスの御前にでても恥ずかしくないよう、常に身だしなみを整えていたのだろう。(マルガリタ・マリア)

「みんなの広場」は、皆様のご意見や感想、平素思っていることなどを載せるコーナーです。メールやFAXの他、紙媒体でも受け付けます。教会事務所に「広報あて」お寄せくださいませ。おまちしています。(編集部)

## 六甲春秋

～中村健三神父によるエッセー 第3回～ ご縁のままに

19日から、西宮のトラピスチンで自分の黙想を行った。かつて那須の修道院を50年以上も前に、こわごわ訪問したことを懐かしく思い出す。国立音大のカトリク研究会の顧問をしていたが、召し出しを感じてトラピスチンに入りたという学生がいた。自分はまったく無知だったので、那須にある同会に出かけた。祈れ働けというモットーのもと、貧しくたくましく、隠れた生活に真剣に取り組む姿に驚き呆れた。大学を卒業後に当人は「恐ろしくなった」と言って遂に入会しなかったが、わたしのご縁は司祭叙階後にも続いた。高齢のガブリエル神父の代わりに、幾年も那須修道院のクリスマスや聖週間の夜の典礼を司式した。杉林の下枝打ちにも汗を流したが、当時はまだ20匹余の乳牛を飼い、新鮮な自家製の牛乳でガレットを作っていた。また宮古島や安心院、さらに信徒も伴って伊万里にも幾度も訪れた。チャプレンの神父たちの独特の生き方も印象に残っている。ここ西宮のトラピスチンは甲山の麓にあり、日帰りで大昔に一度訪れたことがある。

21日の10時ごろから、すぐ上にある鷲林寺が賑やかになり鐘・太鼓・ドラなどの鳴り物入りで、10人ほどのお坊さんたちの読経が始まった。毎月の例祭・大護摩供養が檀信徒も多数参加して行われていた。先祖供養として盛大に荘厳に執り行われることに別に異議はないが、外回りで手伝う寺男たちの尊大な態度はいささか興ざめだった。ロウソク代、お札、経木、昇殿など全てお金の多寡と結ばれているみたいだ。

自分にとって最も考えさせられたのは、鷲林寺が弘法大師空海が833年に開基したことである。今日までの長年月を、どれほどの盛衰と興亡の風雪を経てきたことか。広大な寺領と僧坊を抱え近隣に際立った光彩を放つ存在だった時期があり、また権力争いに巻き込まれ焼亡や敗残の憂き目にさらされたことも数限り。何と寺が無住になったこともあると、案内板には書かれていた。しかし四国の遍路道や札所にも、高野山にも、厳しい修行に明け暮れる修験道の行者にも、まさに空海の生きる力・求道心が今も変わらず溢れみなぎっている。その意味では同行二人、確かに空海は今も生き働き続けている。

祭りに賑わう寺域から、ほんの300メートルも離れないところにシトー会の修道院が建っている。この地に創立以来、100年くらい経つのだろうか。帰宅すると聖堂では、昼食前の6時課が静かにナゴヤカに捧げられていた。この修道院では8人のベトナム出身者が祈れ働けの生活に励んでおられる。50年の後に、200年後に仏教のお寺はキリスト教の修道院は、どうなっているのか。歴史の浮き沈みにもまれながら、時の印に応えながら、我も彼も力強く生き続け、共に地の塩・世の光と存続し、尊い使命を全うしていけますように。



中村健三 合掌

【 2019 年 9 月 予定表 】

| 日   | 月   | 火                         | 水  | 木  | 金                    | 土   |
|---|---|---------------------------|----|----|----------------------|---|
| 1   | 2   | 3                         | 4  | 5  | 6                    | 7   |
| 年間第 22 主日<br>被造物を大切に<br>する世界祈願日<br>バザー委員会 11:30<br>地区役員会④ 12:00 |   |                           |    |    | 初金曜日ミサ<br>7:00 10:00 |   |
| 8   | 9   | 10                        | 11 | 12 | 13                   | 14  |
| 年間第 23 主日<br>典礼奉仕者の集い 12:30                                     |   | 日 本<br>205 福<br>者 殉<br>教者 |    |    |                      | 十字架称賛<br>炊き出し 10:00<br>教会学校始業式<br>Fr.山根 講演会 |
| 15  | 16  | 17                        | 18 | 19 | 20                   | 21  |
| 年間第 24 主日<br>ふれあい広場   | 三日月会総<br>会 13:00                          |                           |    |    |                      | 聖マタイ使徒福音<br>記者                              |
| 22  | 23  | 24                        | 25 | 26 | 27                   | 28  |
| 年間第 25 主日   | 病者・障が<br>い者とも<br>に歩むミサ<br>14:00 カテ<br>ドラル |                           |    |    |                      | 聖トマス西と 15 殉<br>教者                           |
| 29  | 30  |                           |    |    |                      |   |
| 年間第 26 主日<br>世界難民移住者移動者の日(献金)<br>バーベキュー大会                       |   |                           |    |    |                      |   |



|  |  |
|--|--|
| <p>次回10月号の発行は、9月28日(土)です。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご<br/>持参いただくか、FAX やメールでお願いいたし<br/>ます。皆様からの原稿をおまちしております。</p> <p>(広報部)</p> <p><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> | <p>六甲カトリック教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>F A X 078-851-9023</p> <p>E - メ ー ル renraku@rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 アルフレド・セゴビア</p> <p>編 集 広 報 部</p> |
|--|--|